

# 高等研公開講演会

テーマ

## ヒトの心と社会の由来を探る

～ 霊長類学から見る共感と道德の進化～

**同時開催** 国立国会図書館関西館 関連資料展示

**講師** やまぎわ じゅいち **山極 寿一 氏** 京都大学大学院  
理学研究科教授

**日時** **2011年2月19日(土)**  
14:00～16:00(開場:13:30)



タマリンのオスの子育ては  
多産を支える

**会場** 国際高等研究所 レクチャーホール

●定員：150名 ●対象：高校生以上 ●入場：無料

★講演会ご参加には事前申込の必要はありません。当日の開始時間までに会場へお越しください。

★定員を超えた場合、ホール前モニターでご覧いただくこともあります。

★駐車場は用意しています。

★公共交通機関ご利用の場合 「けいはんな記念公園」バス停下車、南へ徒歩7分

祝園駅(奈良交通バス36.47系統) [13時09分,20分,39分] 発→けいはんな記念公園バス停 下車

学研奈良登美ヶ丘駅(奈良交通バス47系統) [13時06分,36分] 発→けいはんな記念公園バス停 下車



錦秋の高等研

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地  
(財)国際高等研究所「山極講演会」係  
TEL:0774-73-4000 FAX:0774-73-4005  
E-mail:event2010@iias.or.jp (日・月・祝休)

# ヒトの心と社会の由来を探る

## ～霊長類学から見る共感と道德の進化～

●講師 やまぎわ じゅいち **山極 寿一氏** 京都大学大学院 理学研究科 教授

### 略歴

1952年東京生まれ  
京都大学理学部卒、理学博士。  
(財)日本モンキーセンター研究員、京都大学霊長類研究所助手を経て、現在京都大学大学院理学研究科教授、国際霊長類学会会長  
1978年よりルワンダ(ヴィルンガ)、コンゴ民主共和国(カフジ)、ガボン(ムカラバ)などアフリカ各地でゴリラの野外研究に従事。  
現在はゴリラとチンパンジーが熱帯林の同じ場所でのように共存しているか、他の生物といかに共進化してきたかを研究している。  
類人猿の行動や生態をもとに初期人類の生活を復元し、人類に特有な社会特徴の由来を探っている。

### 主な一般向け著書

『ゴリラとヒトの間』(講談社現代新書)、『家族の起源』(東京大学出版会)、『ゴリラの森に暮らす』(NTT出版)、『ジャングルで学んだこと』(フレーベル館)、『父という余分なもの』(新書館)、『オトコの進化論』(ちくま新書)、『ゴリラ』(東京大学出版会)、『サルと歩いた屋久島』(山と溪谷社)、『人間性の起源と進化』(編著、昭和堂)、『ヒトはどのようにしてつくられたか』(編著、岩波書店)、『暴力はどこからきたか』(NHKブックス)、『いま食べることの問う』(共著、農文協)、『人類進化論』(裳華房)、『ゴリラ図鑑』(文溪堂)など多数あり。



※国立国会図書館関西館のご協力で、講演会関連の資料展示を行います。



ヒビのオスの子育てでは身の保身を図るため



メスからオスにバトンタッチされるゴリラの子育て

### ●講演要旨

ヒトのもつ普遍的な社会性として、互酬性、向社会性、集団への帰属意識がある。ヒト以外の霊長類ではこれらの特徴は萌芽的にしか見られず、とくに集団への帰属意識はいったん集団を出ると消えてしまう。なぜ、ヒトが見ず知らずの他人の苦境を自分の命まで犠牲にして救おうとするのか。この道德という規範がヒトの社会に発達した理由について、ダーウィン以来多くの進化生物学者たちが頭を悩ませてきた。

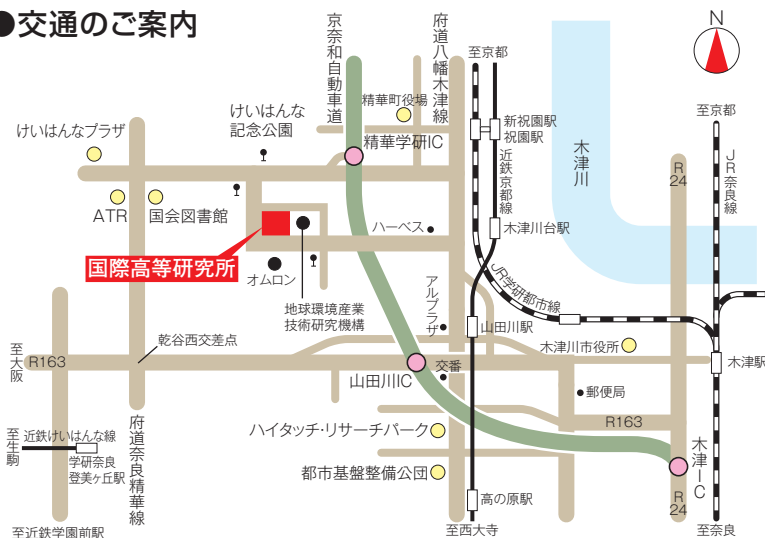
私はそれが、霊長類の能力を用いながらヒトの祖先が捕食者の多い環境で脳の大きな子供を育てるために採用した、生活史戦略と共同保育にあると考えている。ヒトの生活上の特徴を近縁な類人猿と比較してみると、乳児期、少年期、成年期、老年期という共通性の上に、子ども期と青年期をもつことと、老年期が長いという違いがあることがわかる。なぜ、このような不思議な生活史の特徴が進化したのか。

そこには、安全な熱帯林から出て肉食獣の多い草原へと進出した時代にヒトの祖先が直面した課題と、直立二足歩行を完成させた後に脳を大きくした人類進化の歴史的制限要因が隠されている。老年期の延長は類人猿にはない子ども期と青年期を支えるために現れた特徴だと私は考えている。それには共同の子育てをする家族という社会単位の創造が不可欠だった。

家族はヒト以外の霊長類にはない共感を育て、その能力をもとに多様な協力関係を可能にした。それは強い帰属意識を育て、個人の集団履歴を可能にし、重層構造を持つ共同体の存立基盤となった。ヒトの赤ちゃんの身体的特徴には共同保育の歴史が刻印されており、ヒトの食と性の特徴には家族を超えて共同体を発達させてきた歴史が隠されている。

一般の霊長類とは違って、食を公に広げ、性をプライベートな世界に封じ込めたからこそ、それが可能になったのである。それをヒトのユニークなコミュニケーションの方法から解き明かしてみたい。

### ●交通のご案内



### ●鉄道ご利用の場合

- 近鉄京都線:新祝園(しんほうその)駅※急行停車  
JR学研都市線:祝園(まうその)駅下車、タクシーにて7分。  
又は奈良交通バス「光台循環内回り」「学研奈良登美ヶ丘駅行」にて「けいはんな記念公園」下車、南へ徒歩7分。
- 近鉄京都線:山田川駅※普通のみ停車  
下車、タクシーにて7分。又は奈良交通バス「木津川台住宅行」にて終点下車、西へ徒歩5分。
- けいはんな線:学研奈良登美ヶ丘駅下車、奈良交通バス「祝園駅行」にて「けいはんな記念公園」下車、南へ徒歩7分。

●奈良交通バス 時刻/料金お問い合わせ  
奈良交通テレフォンセンター TEL.0742-20-3100

### ●お車ご利用の場合(駐車場有ります)

- 京都方面より  
京奈和自動車道「精華学研IC」を出て右折、精華大通りを西へ1km、T字路を左折200m
- 奈良方面より  
R163より府道八幡木津線北上、近鉄木津川台住宅地前交差点左折(左折車線あり)約2km直進